

人物
紹介押しつけず、同じ目線で
—長年、地域のボランティア活動に取り組む

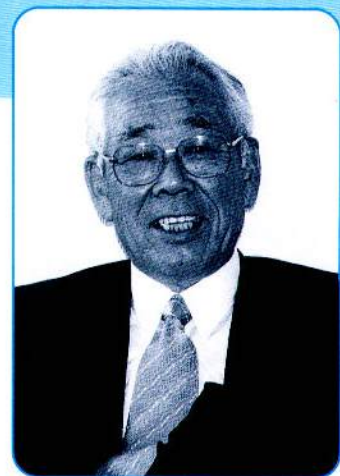
「夏の暑い日。家で昼寝していると、『おっちゃん、ソフトボールしよう』と子どもたちが誘いにきてくれました。子どもって、その思いを大人が素直に受け入れ、本気で語り合い、ふれあうことで、ここまで変わるものかと実感しました」。1970年代、校内暴力で学校が荒れた。学校からはじき出された子どもたちと青少年育成指導員、公民館運営審議会委員として、スポーツや文化活動を中心に地域で深くかかわった。

「子どもたちの持っている良い面をみつけて、一緒に同じ方向を向いて歩む。大人のかたちを押しつけるのではなく、同じ目線がかかわり、子どもたちの主体的、自発的な言動を大事にする。それは、人権啓発も同じではないかと思っています」。簡単には、大人に心を開いてくれない子どもたちとのかかわりも、人権啓発も、押しつけはいけなさが持論。

さらに、「子どもたちにいかにほんとうのことを教えるかだと思います。ウソはすぐにメッキがはげますし、子どもたちはすぐ見抜きます」と豊富な実践に裏打ちされた指摘は重みがある。

河内弁で豪快に笑う。一見大胆だが、若い頃から多く地域活動に参加して、さまざまな意見を取りまとめる立場にあった経験をいかした、その繊細で慎重な対応は関係者の信頼感を高めてきた。

人権啓発推進協議会の活動には創設時からかかわり、人権擁護委員としても活躍中で、「ボランティア活動が趣味」とつれあいさん。「少しは家族サービスも」と思いながら、今日も地域へ足を運ぶ後ろ姿を「ややあきらめふうに見送ってくれています」とはにかむ。



愛ネット大阪
(人権啓発推進大阪協議会)
会長 中井 一清さん